

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501050		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	北海道札幌市白石区北郷3条9丁目1番31号 (電話) 011-875-9700		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	平成20年10月6日

## 【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年10月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1 ~ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000~65,000 円	その他の経費(月額)	12,000~19,000 円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃3ヵ月分) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 6月18日現在 )

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家改修型の福寿荘は、開設後8年が経過し、これまでの経験の中で培った運営ノウハウを活かし、全職員による熱意ある事業所運営を行い、高齢者介護についての理想を現実とすべく日々自己研鑽し、サービスの質向上に取り組んでいる。職員研修・人材育成については、年度ごとに研修計画を立案し、外部講師等を招くなどの取り組みを行っている。また、終末期への対応は、利用者・家族の意見をその場面場面で繰り返し確認し、要望に沿う処遇については実績がある。また、事業所内が非常に落ち着いており、利用者の生活は安定している。職員の真摯な姿勢と、介護サービスに関する質向上への意識が非常に高く、今後ますます期待が持てる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善点は、前回評価時から短期間しか経っていないが、運営推進会議や町内会などと協同しながら積極的に取り組み、おおむね改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	取締役以下サービスに関わる全職員で、自己評価の検証を行っている。前回外部評価から今回評価までの短期間で、前回の課題を改善するなど、職員全体が熱意を持って取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	定期的に運営推進会議を開催し、主に防災や運営全般への意見交換や情報交換などを行っている。この会議の運営も定着し、また近隣地域に同法人が運営する介護保険事業所も数ヵ所存在していることから、相互的に周知され地域住民からの信頼も厚く、地域住民も運営へ積極的に関与している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	介護計画への意見の反映や、面会時における介護記録の閲覧など、サービスの質向上について熱心に取り組んでいる。家族会を結成しており、定期的な交流を行うとともに、日ごろの事業所運営に対する意見交換を行うなど、利用者や家族の希望を中心とした対応を行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を主体として地域や町内会などとも連携し、交流を行っている。町内会行事に参加したり、地域の催し物などにも積極的に参加している。近隣住民も事業所へ積極的に関与している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットに「安心して暮らせる社会づくり」を謳い、地域交流を念頭に置いた理念を明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所内の数箇所に明示している。常に確認ができ、理念達成に向けて職員間で話し合いを持っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民からの利用相談や、地区担当の保健師より利用についての問い合わせを受けるほか、地域の行事への参加を利用者の希望に沿って支援している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を取締役以下サービスに携わる職員で実施し、自己点検を行うとともに、外部評価を受けた結果をサービスの質向上に反映できるように話し合いを持つなど、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度を目安に、定期的に運営推進会議を開催している。防災の取り組みについての話し合いや、地域町内会との連携などについて、意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者会議を中心に、行政や他事業所運営者と、活発に意見・情報交換を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、管理者は前回面会時からの介護記録の提示を行い、利用者の生活状態がわかるように対応している。また、月に一度、事業所での生活についてまとめた書類を郵送している。金銭については、随時家族より確認のサインをもらい、使途を明瞭にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に、介護記録の提示を行っているが、その際に事業所に対しての要望や、運営に対しての意見を聞くようにしている。苦情受付箱を設置しており、無記名にて意見を表せる体制も確立している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近接地域にて認知症対応グループホームなどを運営しており、適材適所・能力勘案を目的として、必要最小限の人事異動を行っている。その際、利用者へのリスクを十分に検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を、年次ごとに計画を立て実施している。外部研修へも参加し、研修内容は他職員へ報告するシステムを構築している。新人への教育は年度を通して対応しており、研修実施に熱心に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者間で連絡を取り合い、情報交換・意見交換を行っている。今後、地域の他事業所と連携し、学習会などを定期的開催し、更なる向上に向け取り組むことが期待される。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問を実施するなど、サービス開始にあたり事前に関係を構築し、利用開始後は早期に馴染めるよう対応している。利用前に家族から生活歴などを聞き、ケアの場面で活かすように協議を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は相互に対等な関係のもと、職員は認知症高齢者の権利を守りながら、共に支えあう介護サービスの実施に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活スタイルの選択は、利用者主体に考えており、常に、利用者が望むならばという体制で、意向把握や希望の実践をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員参加の下、カンファレンスを実施し、介護計画の原案を立案している。その後、家族や利用者本人も交え、介護計画についての打ち合わせを行い、作成している。また、家族がカンファレンスへ参加が困難な場合は、面会時などに意向を聞き、遠方の場合は郵送などの手段で、家族とより綿密に意見交換を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、定期的に見直しを実施している。また、要介護認定の変更時や入院後の身体状況変化時などには、臨時に見直しを実施するとともに、認知症の周辺状況の変化や問題行動の出現時などにも、検討を行うシステムになっている。家族の申し出により、随時介護計画を変更することも可能である。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現所在地においては単独の事業運営であるが、近隣には他のグループホーム、通所介護などの事業を運営しており、多機能的に協力体制をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意見を尊重し、かかりつけ医の診療を受ける体制を整えている。緊急時は、かかりつけ医と連携し、緊急対応を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて、その段階ごとに、かかりつけ医や本人・家族とも方向性を確認している。終末期に向けての対応も、可能な限り行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳や権利を尊重し、個人のプライバシー保護を行っている。個人情報に関する扱いは、利用開始時に文書によって、介護サービスを行う上で必要な事項の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の尊厳や生活ペースを考えて、暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにて食事が摂れるよう準備しているが、利用者間の好みや介助の度合いにより、他に2ヶ所で食事ができるように準備をしている。食事の準備や配膳などを、職員と一緒に利用するもいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度の入浴回数を目安に、入浴支援を行っている。入浴の時間などは、利用者の希望をできる限り聞き、対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除などは、利用者の能力を考慮して職員と一緒に実施している。また、利用開始以前の趣味や嗜好を十分に配慮し、その人らしい暮らしができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の気分を考慮しながら、利用者の希望に沿って、散歩や買い物などを実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上の理由により玄関を施錠しているが、家族の面会・来訪などの対応は可能である。昼間は開錠しており、利用者は自由に出入りが可能で開放的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を選任し、防災対策を行っている。定期的に年2回の避難訓練を実施するとともに、運営推進会議などを通じて、近隣住民へ災害時の支援要請を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取に関しては、体調が悪い利用者について重点的に記録を行っている。ミキサー食など、食事形態の変更への対応や、体調不良時の粥食の提供など、弾力的に実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・台所・和室など、高齢者が落ち着いて暮らしやすいように、配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、箆箆やチェストなどの使い慣れた品々を持ち込んでいる。孫などの写真を飾ったり、遺影を祭るなど、利用者本人の希望に応じて思い思いの生活を再現している。		

※  は、重点項目。